

IFRS適用を契機とした 事業基盤の 再構築に向けて



福田政浩

アクセンチュア株式会社
財務・経営管理グループパートナー

一. はじめに

公開企業の会計基準はIFRS (International Financial Reporting Standards: 国際財務報告基準) に統一されるのが世界的な潮流となっている。グローバルマーケットで活躍する企業にとって、投資家の信頼を得るためにはIFRSでの財務諸表作成・開示が不可欠な時代が到来している。

二. 日本企業における 取り組み状況

(社)日本経済団体連合会の調査結果(IFRS適用に向けた取り組み状況等)に関する調査結果概要: 二〇〇九年四月六日)によると、日本企業の取り組みは、約半数の企業が「全く検討していない」状況であり、また「検討を開始している」企業においてもその大半(九割強)が現行基準との

差異把握といった検討の初期段階にあることが明らかとなった。多くの企業は、企業会計審議会の検討や他社動向を見極めた上で、検討を開始するスタンスをとっていると想定される。

三. 米国企業における 取り組み状況 (アクセンチュア調査結果より)

一方、日本と同様にIFRS強制適用への移行が検討されている米国の取り組み状況について、昨年末にアクセンチュアが米国上場企業のCFOを含む経営幹部を対象に実施した調査(対象企業二〇八社)結果を一部紹介する。

① 適用時期

調査対象の六四％に相当する企業が「早期適用を選択予定もしくは今後一二月以内」にIFRS適用に「取り組み」としており、多くの企業が早期対応を目指している状況が明らかとなった(図1参照)。

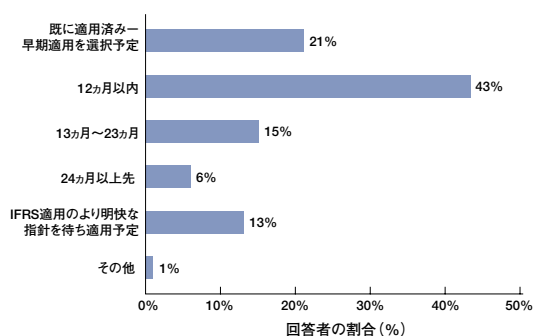
② 導入期間と投資額

適用・導入にかかる期間について、

③ IFRS適用による効果

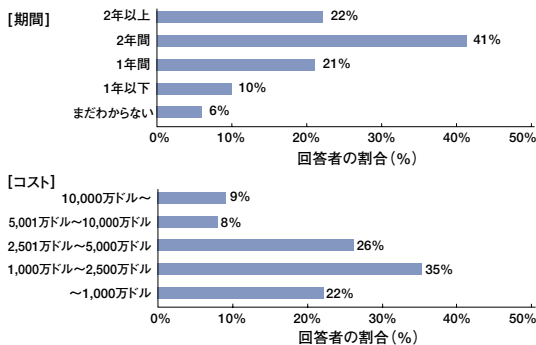
効果については、さまざまな回答

図1 ● IFRS適用の時期



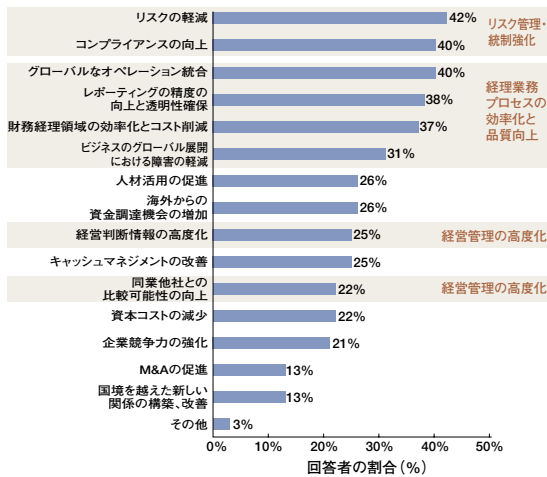
出展: アクセンチュア「IFRS移行に関する意識調査」

図2●IFRSの導入期間と投資額



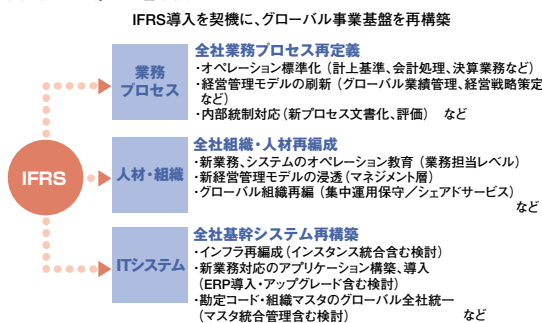
出展:アクセンチュア「IFRS移行に関する意識調査」

図3●IFRS適用による効果 (複数回答)



出展:アクセンチュア「IFRS移行に関する意識調査」

図4●IFRS導入の着眼点



△参考文献
 *「IFRS適用に向けた取り組み状況等に関する調査結果概要」(2009年四月六日、社) 日本経済団体連合会
 *「IFRS移行に関する意識調査」(2008年二月、アクセンチュア
 www.accenture.com/Countries/Japan/About_Accenture/News_Releases/2009/news_090401_b

を得た。リスク管理・統制の強化や

経理業務プロセスの効率化・品質向上、そして経営管理の高度化といった複数の観点からの効果を見据えている企業が多く存在した(図3参照)。

④米調調査結果からの示唆

調査結果から以下三点の特徴が挙げられる。

●IFRS適用への取り組みは長い

期間と多大な投資を要する

●早期の適用を見据えて、多くの企業は取り組みを開始している

●IFRS適用は企業に多くの負担を強いる反面、効果として得られ

るメリットも多く存在する

米調調査の結果、IFRS適用による効果・メリットの大きさを認識しているゆえ、早期適用に前向きなスタンスを取っていると考えられる。日本企業にとっても、米調調査の取り組み姿勢は参考となるであろう。

四・IFRS導入の着眼点

IFRS適用の影響範囲は、決算処理にとどまらず業務全般に広く影響を及ぼす。欧米の先進事例では、IFRS導入を機に、従来の「業務プロセス」「組織・人材」「ITシステム」

のあり方を抜本的に見直し、全社的な対応を行っている。

単なる会計制度対応という枠にとどまらず、IFRS導入を契機にグローバル視点で、全社業務プロセスを再定義し、ITシステムを再構築するとともに、人材の育成や組織のあり方を見直している。IFRSというグローバルな共通の物差しを導入することで、自社の事業基盤の再構築につなげようとしているのである(図4参照)。

五・IFRS導入の進め方

IFRS適用にあたって、「影響診

断」「計画策定」「設計・開発」「テスト・導入・展開」そして「定着化」と段階的かつ計画的に取り組みを進めることが肝要となる。

影響範囲も広く、関係する会社・部署も複数にわたることから、経営層のIFRSに対する十分な理解が必要不可欠となる。経営層の強力なリーダーシップの下、グループ全体を挙げて導入にあたるのが成功の鍵となるであろう。

前述したようにIFRS適用は企業にとって多くの労力とコストを要する取り組みと想定される。一方で得られる効果・メリットも大きい。IFRS適用を今後のグローバルでの競争優位を獲得するための事業基盤(業務プロセス、ITシステム、人材・組織、経営管理など)再構築の好機と捉え、積極的な取り組みへと昇華させていくことが重要となるであろう。